

# 釣れ釣れなるままに

2000年思い出の釣行記 PART. 番外

## 鹿島釣狂



☆入釣日 平成12年6月18日

☆入釣場所 石狩川・美唄川出合い

☆釣果 ウグイ3匹 フナ4匹

息子が内定した就職口の知らせをもって帰省する。帯広松下電工であると電話での報告を受けてはいたが、改めてお祝いと労いの言葉をかける。息子は自分がどれほど頑張ってきたかを得意満面に話して聞かせる。そして「もっと誉めてくれ」の言葉に改めて息子の頑張りに拍手を送る。「自分で自分を誉めてあげたい」の有村優子よりもさらに上をいく言葉のように感じた。

大学生・高専生併せて10名の受験者があり、その内の3名が合格したとのこと。1回目の就職受験では不合格（富士通）の苦い経験も味わっていた。担任の教官が「1回目の受験

を失敗してよかったな」「1 回目の会社よりいいところに内定したな」と息子に話してくれたことを聞き、親として初めてその就職口に安心する。

おもむろに、内定した会社のパンフレットに見入る。隅から隅まで何度も読み返す。息子が就職の条件で一番、重要なこととしてあげていたのが、労働条件である。給料は他の会社とたいして相違ないが、週休2日制であり、休暇等の労働条件も大変整っている。(本州の会社の初任給は24万程と聞いているが)

父親としては働きがいがある会社で生き生きとして仕事に向かってくれることを望む。しかし、母親の方は安定した会社を望んでいる風ではある。

内定に対する誓書を書き送らなければならないと言う。そこでどのような形式で書いたらよいか分からず、鑑の文章の書き方を尋ねてくる。私に頼んでくれたことがなにより嬉しい。そして、私のワープロを使って一生懸命打ち込んでいる姿がなお嬉しい。

娘が高体連バスケット全道大会出場を決めた。3年生が2名、2年生が3名。1年生は多いらしい。受験勉強もおろそかになるほど、親の目からも頑張っている様子が伺える。バスケットの練習で遅くに帰ってくる。土曜日、日曜日にかかわらず登校する。

親に似るとスポーツは音痴のはず。

集中力はある。自分に厳しい。根気強い。粘りがある。

小学校4年生のころから学校の部活に熱中しており、親が子どもとともに遊びたい気持ちをぐっと押さえることが多かった。

息子はおっとりしている。気持ちが優しい。

稚内に3泊できるのが何より嬉しいようだ。

修学旅行が2回ある？

旅費はどうするのだろう。学校で出してくれるらしい。しかし、それはPTAから集めているものだろう。親が出さないでよい事にこしたことはない。小学校時代のブラスバンドの全国大会も地域に募ったカンパで行くことができた。母親も応援を名目に大阪や浜松までついて行く。何もデイズニーランドに行くことはないのにもかかわらず……。今回も、娘をダシに稚内へ向かう算段をしているに違いない。

息子の就職内定と娘の全道大会出場を祝って乾杯をする。

18日は父の日。息子のもって行くものを買いにスーパーに行く。そこで父の日のセールがあり、初めて父の日であることを知った。

1週間前からおなかの調子が悪い。以前は毎年のように1年に1回は大きな腹痛を起こしていた。ここ3年間は全くなかったのだが。新しく職場が変わったので、病院にかかると職業柄ストレスがたまっているのだろうといわれる。自分では楽にしているつもりなのだが。

午後からなんとなく暇になったので手持ち無沙汰。そうなる釣りの虫が騒ぎ始める。  
石狩川に鯉を釣りに行く。

カナダ屋でシマミミズ（天然との表示あり）と鯉の練りエサを買う。

タモを忘れた

職場に池がある。カメラは必要がなく、その代わりにバツカンを持った。

3時ころから釣り始める。

竿先を折る。頭上の柳に仕掛けを引っかけたためだ。無理に引っ張った。

5時ころようやくアタリらしいアタリがあり25cm程のフナが2匹釣れる。

しばらく間があって、大きな引き込みがあり40cm近いフナが釣れる。

対岸では鯉がバシヤ、バシヤ、バツシャンとやる。

娘はいなく妻にカメラに収めてもらう。

ズボンを履き替えないで出掛けたため泥がつき、いつものように一言あるが心に留めず、  
フンフンと聞き流す。

職場の池に放す。

昨年の創立30周年記念行事の予算の残りで池を補修することになっている。しかし、具体的な案として持っておらず。